

ポリテックビジョン in おおだて

11題の研究成果集う

職短生と高校生が発表

大館市の秋田職業能力開発短期大学校（後藤康孝校長）で9日、「ポリテックビジョン in おおだて合同発表会」が開かれた。同短大の学生や北鹿4高校の生徒が参加し、

これまで取り組んできた研究活動などの成果を伝え合った。

高大連携事業の一環。発表会を通じて能力や学習意欲の向上、興味の喚起を促し、地



計11題の成果が披露された発表会（秋田職業能力開発短期大）

域の将来を担う若い人材を育成しようとする毎年行っている。今回は同短大生のほか、大館桂桜高、大館国際情報学院高、秋田北鷹高、十和田高の代表生徒が参加。調査研究活動や総合製作実習の成果など計11題を発表した。

会も開かれた。同大と東北能開大（宮城県）、青森職能短大の16人が参加。ハードウェア、ソフトウェアの2競技で組み立ての速さや正確さを競い合った。

このうち同短大生産技術科の3人は、機械加工などへの理解を深めるために行った射的ゲームの製作について発表した。発射台や回路、筐体などの製作過程や試運転の結果を報告。最後に製作を通しての感想を発表し、「納期の重要性や利用者のことを考えながらものづくりをする難しさなど、多くのことを学べた。この経験を生かし、より良いものづくりにつなげたい」とまとめた。

発表会と並行して校内では「電子情報系ものづくり競技

大会」が開かれた。同短大の学生や北鹿4高校の生徒が参加し、